

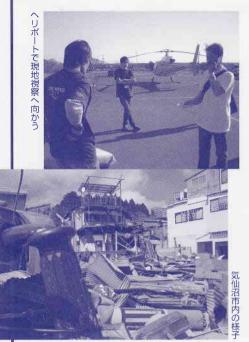
地で新たな希望を見い出せるよう、PWJは、経済復興へ向けた商工会議所への支援や、心に痛手を負った子どもたちを地域ぐるみで支えていく活動なども中長

期的な計画に基づいて継続していく。

一東日本大震災「緊急・復興支援」

### 即日に出動決定、気仙沼で活動を開始

2011年3月11日午後2時46分。国内観測史上最大規模のマグニチュード9.0の地震及び直後の大津波が東北地方を中心とする太平洋沿岸地域を襲い、各地に甚大な被害をもたらしました。その報に接したピースウィンズ・ジャパン(PWJ)



は即座に出動を決定 し、翌12日にスタッ フは被災地に向けて出 発しました。3月12 日には宮城県名取市、 13日には石巻市、気 仙沼市の被災状況を視 察し、地震と津波によ る壊滅的な被害ととも に、多くの人々が住む 家を失い、避難所では 水・食糧をはじめとす る生活に必要な基本的 物資の入手に苦慮して いる状況を確認し、宮 城県気仙沼市にて被災 者支援を開始すること を決定しました。

気仙沼市内の避難所



## 水を、食糧を。刻々と変わる現場のニーズに対応

PWJは避難所での聞き取りや各市町の災害対策本部との調整を踏まえ、変化するニーズに対応し、食糧や水、衛生用品や衣類、ストーブなど、緊急支援物資を届けてきました。気仙沼市に加え、支援地を宮城県南三陸町、岩手県陸前高田市、大船渡市へ拡大し、PWJが各地の避難所や自治体の集積所に届けた物資は、1か月で4トントラック30台分以上に上りました。

被害がきわめて広範囲に わたり、道路の寸断などで アクセスも難しい中、支援 の道のりは予想以上に厳し いものでした。物資の輸送 に欠かせないガソリンの確 保に苦慮し、福島の原発事 故の影響による放射能被害 にも留意しつつ、活動を続 けました。





## 中長期的な支援へ 地域に根ざした復興をサポート

震災発生から2か月以上が経過。PWJでは、中期的な支援として、被災地の方々が生活再建するための足がかりとなる 復興支援事業を進めています。

#### ●仮設住宅への生活用品の提供

岩手県が現在進めている被災者向け仮設住宅事業に関連し、入居される方々に生活用品(食器や寝具、衣類など)を提供。

#### ●子どもを取り巻く地域社会への支援を通じた心のケア



気仙沼市内、陸前高田市内 の避難所にて避難生活を続け る子どもたちへ玩具セットを 提供し、一緒に遊ぶサポート 事業を始めています。4月7 日から20日までは、避難所 16か所での映画の上映会も 開催。今後は、学校の先生や 保護者など子どもに関わる人 々を対象とした研修事業も計 画しています。

#### ●商工会議所のサポートなどを通じた経済復興

陸前高田市、大船渡市の商工会議所と協力し、地元 の経済復 興への支援を開始。仮事務所を設営した商工会議所のインター ネット環境を整え、事務用品を提供しました。また、避難所を巡 回するバスを運行するサービスな ども4月下旬から開始してい ます。今後は、商工会議所の会員へ移動販売をするための物資 (車や保険など)の提供や地域振興券の発行を予定しています。





#### 支援の現場から 明日への一歩は人のつながりから

陸前高田市立第一中学校の校庭に完成した仮設住宅に移り住 んだ佐々木栄さん(80)、松子さん(77)夫婦。震災当日は、 夫婦で家の畑に出ていた。大きな揺れを感じ、家に逃げ帰ると 屋根の瓦が次々と落ちてくる。これはいけないと、夫婦で小高 い丘に向かって走りだした時に波が勢いを増して押し寄せ、ま さに津波に追われるように走った。顔見知りの老夫婦が逃げ遅 れ、手を差し伸べなからも目の前で波にのまれていった光景が 今でも頭から離れないという。

避難所となったのは、丘の上の神社に隣接する会館。濡れて逃 げてきた人たちには優先的に毛布をかき集めた。電気もなく、電 話も通じず、家族に自分たちの安否を知らせることもできなか った。避難生活が6日目となったとき、娘夫婦と孫の姿が目の 前に現れた。「幻でねえかと思ったよ。ばあちゃん、じいちゃ ん、迎えにきたよ、って。」その言葉が、気を張りつめていた 心を溶かした。「家族と抱き合ったりすることなんて、映画だ けだと思ったの。でも、思わず、抱き合ったね。| そういって 目頭を押さえた。

インタビューの最中に、郵便物が届いた。包みを開けると、中 からは遠方の知人からの手紙と羊羹。住所を確保し、家のふと

んで眠れる日々が取り戻せ たことで、生活再建へ向け てようやく一歩が踏み出せ た。人は人とつながること で、明日を生きる勇気を持 つことができると、教えら れた気がした。

広報 山下智子



#### 広島県神石高原町に 災害救助犬訓練センターがオープン

この度、同町仙養ケ原ふれあいの里にて、災害救助犬の育成 事業を行う拠点となる「ドッグラン仙養」がグランドオープン し、隣接する災害救助犬訓練センターも営業開始しました。

問い合わせ:ドッグラン・災害救助犬訓練センター/

TEL (0847) 89-0039

**720-1702** 

広島県神石郡神石高原町 上豊松72-8



お知らせ

#### PWJー関事務所が開設

東日本大震災に対応した中・長期 的な支援事業体制の構築に向け、 PWJは一関市田村町に事務所を開 設しました。現在、スタッフ10名 が常駐しています。



#### Twitter, Facebookを始めています

PWJの支援活動の速報は、PWJ公式ツイッター、 FACEBOOKにても情報を更新しています。

公式ツイッタ-

http://twitter.com/peacewindsjapan

公式FACEBOOK ファンベージ

https://www.facebook.com/PWJPublicRelations

### PWJの活動にご協力ください

※認定 NPO 法人の PWJ への寄付は、税金控除の対象になります。

#### 【郵便振替】

口座番号:00160-3-179641

加入者名:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本震災の場合はそ

旨を)を明記してください。

#### 【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

: 三井住友銀行青山支店 銀行名 口座番号:普通 1671932

口座名義:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店 口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人 ピース ウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振 込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

- ·3/18 NHK [ニュースウォッチ9] に 代表理事大西が生出演
- 朝日新聞「オピニオン」に 代表理事大西のインタビュー掲載
- .3/21 日テレ 「action!」 にPWJの活動が紹介
- ・3/22 テレ朝「やじうまテレビ」にPWJ斎藤が出演
- ・3/30 雑誌 「TIME」 ICPWJ山下のコメント掲載
- ・3/30 TOKYO FM 「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」に代表理事大西が出演
- ・4/3 NHK白熱教室JAPANにてPWJがケーススタディに。PWJ山本が出演



# \*ピースウィンブ・ションチャッキ

がんばろう日本 寄付付きコーヒー販売開始

## コーヒーでつながる 想いをつなげる がんばろう日本

3月11日に起こった未曾有の大災害。

フェアトレード部でもコーヒーで被災された皆様を応援できればと 考え、宮城県南三陸町を中心にピースコーヒーをお配りしてきました。

「地震以来はじめてのコーヒーだわ」「おいしい、このコーヒーはおいしい」「あー、ホッとする」「この香り忘れてた」などたくさんの喜びの言葉をいただき、コーヒーがもたらす時間というものを再認識しました。

このたび、東ティモールのピースコーヒーに「がんばろう日本」ラベルをつけた東北応援寄付付きのフェアトレードコーヒーの販売を開始しました。コーヒーを選んでいただくだけで東北支援にもつながるフェアトレードコーヒーです。

ピースコーヒー200g粉、ドリップバッグギフトは各100円、2個入りコーヒーギフトは200円、3個入りは300円をPWJの東日本大震災緊急支援活動に活用させていただきます。

みなさまの想いを東ティモールと東北の被災された方々へ届けたい と思います。この機会にぜひご利用ください。

#### ご注文は、http://www.peace-winds.org/shop/

または**TEL03-6438-9403、FAX03-5786-7782**まで。 ※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの国際支援活動に活用されています。



## 東ティモールから日本にメッセージが届きました

日本の皆さんには大変な 状況を乗り越えて我慢強く 頑張る力があります。



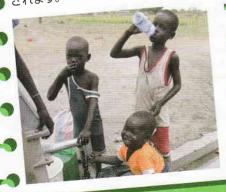
私たちは美味しいコーヒーを東ティモールから届けることで日本の皆さんを応援します。

元気を出して、ガンバレ ガンバレ ニッポン

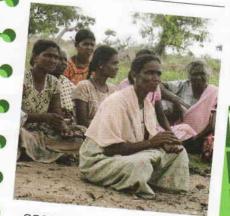
## 支援地レポート

## スーダン

2011年1月の南部スーダン独立を問う住民投票の後、治安の確保に留意しながら活動を続け、アコボ郡で12本、デュック郡で8本の井戸が完成しました。ある村では、井戸の引き渡し時に村人が総出で踊り出し、井戸ができた村人が総出で踊り出し、井戸ができたはでほより、衛生状況の改善だけでなく、毎日の水くみから解放される子どもの教育の機会も増えることが期待されます。



# スリランカ



2010年の年末から降り続いた大雨 洪水による被害に対応して、PWJはス リランカ東部で緊急支援を行いました。 避難所にいる被災者の食糧支援や、汚 泥がたまった井戸の除菌作業や給水事 業などに携わりました。現在は、東部で 帰還民に対する生計支援に加え、北部 ワウニアでもコミュニティ生計支援お よび学校の修復事業を展開しています。

## ハイチ

2010年1月のハイチ地震に対応し、 PWJは簡易教室をはじめ、教員室やトイレの建設支援を行っています。また、ブラード地域の広場が震災後に瓦礫とゴミに埋もれて利用できなくなっており、日本の国際救援隊(自衛隊PKO派遣)と協力して、瓦礫除去と整地を行いました。子どもたちが伸び伸びと広場で遊び、コミュニティの人びとがその笑顔を見守ってくれることを願っています。



発行/特定非営利活動法人ビースウィンズ・ジャバン 〒107-0062 東京都港区南青山3-8-37 第二宮忠ビル7F Tel 03-6438-9401 Fax 03-5786-7781